

# 新造 新実業問学

“学問より実行”

新渡戸稲造が1931年、遠友夜学校を訪れた際に残した教育方針

写真提供：北海道大学大学文書館

## 新渡戸稲造(にとべいなぞう)と「遠友夜学校」

1862年(文久2年)～1933年(昭和8年)、享年72。現在の岩手県盛岡市、南部藩士・新渡戸十次郎の三男として生まれる。米国で出版された『BUSHIDO The Soul of Japan』(邦題：『武士道』)の著者として知られる新渡戸は、大学教授や学長を務め、教育者としての業績を残している。新渡戸が32歳の札幌農学校教授時代に、貧しくて学校に通えない人々のために妻メリーと始めたのが「遠友夜学校」である(1894年/明治27年)。生涯で唯一、新渡戸が創設した学校で、授業料無料・男女共学で年齢制限なしという当時としては画期的な学校であった。1944年(昭和19年)の閉校まで50年間で約1,170人が卒業し、富や名誉より人格形成を重んじた教育が行われた。



## 受け継がれる遠友の精神

「遠友夜学校」に込めた新渡戸稲造の想いは、現在どう継承されているのだろうか?その答えを探るドキュメンタリーの旅が始まる。「遠友夜学校」の卒業生は誰も生存していない現在、その痕跡を求めて卒業生の子供たちに出会い、父母から聞かされていた「遠友夜学校」の生活を彼らが語り始める。北海道大学にはボランティアサークルとして市民講座「平成遠友夜学校」が開設され札幌市民に門戸を開いている。また1990年に「札幌遠友塾自主夜間中学」が創設され、遠友夜学校の精神を今に受け継いでいる。教育を受けることができなかった人たちが、学ぶことで自己を取り戻し、夢や希望を叶えている姿が美しい。学ぶことが生きる証と喜びになっている。東京では、子供たちに新渡戸の精神を伝える「こども武士道」の教室が開かれ、130年前に創られた小さな夜学校の教育が現代に蘇っているかのようだ。今をどう生きればいいのか?映画には、そのヒントが散りばめられている。

## 野澤和之監督プロフィール

文化人類学を学んだ経験から社会の周縁にいる人々を描いた作品が多い。在日1世の家族を描いた「HARUKO」、元ハンセン病夫婦の物語「61ha絆」のほか、「がんと生きる言葉の処方箋」「認知症と生きる希望の処方箋」の処方箋シリーズが好評。




■ お問い合わせ：新渡戸の夢映画製作委員会 <E-mail> inquiry@nitobenoyume.com

■ 特別協力：  拓殖大学 Takushoku University  拓殖大学北海道短期大学 Takushoku University Hokkaido College

 札幌フィルムコミッション Sapporo Film Commission

 札幌市映像制作助成金 Sapporo City Subsidized Project

 SAPPORO

 JASBEL 基礎教育保障学会 基本きょういくほしやうがっかい

■ 撮影協力：  北海道大学

■ 協賛：  株式会社BP-TECH Brain & Body Store®

 一般社団法人 日本セルフケア研究会 Japan Self-care Institute®

製作・配給：©2024新渡戸の夢映画製作委員会  
https://nitobenoyume.com/



8/31(土)より  
当館にて上映

阪急(十三)駅下車 西口より徒歩5分  
シアターセブン

大阪市淀川区十三本町1-7-2 サンボードシティ5F  
☎ 06-4862-7733 / theater-seven.com

